

福岡教区今年度の目標…「いつくしみ深く、御父のように」  
小教区今年度のテーマ…「届けよう、神のいつくしみを共に」

## 苦しみの意義

主任司祭 遠山満

先日、一人のパラリンピック選手が、いざという時、安楽死の選択もできる書類を準備している事が報道されました。この報道は、日本の選手達の間にも波紋を広げました。14歳の頃、脊髄の病を発症し、その痛みと23年間、闘い続けてきた彼女に、同情を禁じ得ません。他方、私は、有名なパラリンピック選手が安楽死すれば、この世の栄光に繋がる苦しみには意味があるが、そうでない苦しみには、意味がないというメッセージが、その行為自体によって、世界中に広がって行ってしまわないかと、危惧もします。

教会は、安楽死に反対します。カテキズムの2277番に、安楽死について次のように書かれています。「障害者や病人、あるいは瀕死者などのいのちに終止符を打たせる直接的な安楽死は、動機や手段のいかんを問わず、倫理的に容認できません」。

何故でしょうか。それは、自他のいのちの軽視が、大きな犯罪へと発展することがあるからです。ナチスによる安楽死の犯罪に対して、ユダヤ系のアメリカ人医師、レオ・アレクサンダーは次のように言っています。「初めは、医師達の基本的な姿勢の強調点が微妙に変わっただけだった。生きるに値しない命があるという、安楽死運動における基本的な姿勢を受け入れることから始まった。この姿勢は初期の段階では重く慢性的な病気だけに関係していた。次第にこの範疇に含まれる範囲が、社会的意味での生産性のない人、イデオロギー的に不要とされる人、民族的に望まれない人、そして最後にはドイツ人以外の全ての人にまで広げられたのだ」(“YOUCAT”208ページ)。

それでは、私達は、苦しみにどのように対処していけばよいのでしょうか。一見、意味のないように思える苦しみ、また、その克服が、この世の栄光には繋がらない苦しみが襲ってくる時、どのようにすれば良いのでしょうか。聖人達は、自分が受ける苦しみを、イエス様と共に、イエス様に倣って、多くの人の救いの為に捧げながら生きました。多くの人々を愛して、その人たちの為に自分の苦しみを捧げました。私達も、イエス様、マリア様、ヨゼフ様、多くの聖人方に倣い、私たちに与えられる苦しみを、多くの人の為に捧げて参りましょう。そうすることによって、私達が受ける苦しみに意味のある事を世界に知らせて参りましょう。

開催日時：2016年9月11日（日）11：40～12：30

開催場所：信徒会館

司会：川原

書記：牧山



始めの祈り—アヴェ・マリアの祈り

1. 敬老会について

9月25日（日）10時のミサ後

対象者（75歳以上）72名に、招待状を送付している。

欠席者へのお祝いの品は、①ミサに来られた時に渡す、②誰かが届ける、③送る のいずれかの方法でお渡しする。どの方法が適切か、欠席者の状況が分る方は、役員まで連絡ください。

ミサの中で病者の塗油が授けられる。

2. 一人一役について

(1) 皆さんからの申告状況について ※配布資料を参照

申告があった方と、申告が無くとも既に役割を担っている方々の名前を挙げています。

(2) 今後の進め方について

10月一杯かけて、チームごとに集まってリーダーを決めてもらう。集まるのは日曜日の10時のミサ後。いつどのチームが集まるかは役員で調整し、お知らせに掲載する。

(3) 意見

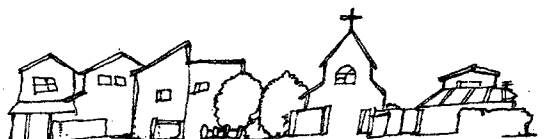
・仕事の都合で日曜日に来れない方もいるので、もう少し時間をかけてはどうか。

→10月は行事が無いので集まりやすい。日曜日に来れない方については別途フォローしていく。

・一人一役を決めてしまうと、名前が挙がっていない人は、もういいんだと思ってしまうのか心配。毎週のお知らせを活用して、お手伝いを呼びかけるようにしてはどうか。

→「一人一役」は、笹丘小教区共同体の一員として、最低何か一役荷うという意味合いであることを理解して欲しい。

終わりの祈り—主の祈り



# 堅信おめでとう

9月4日 宮原司教様の司式で堅信式が行われ 12名の方々が受堅した。



ホールでは和やかな雰囲気の中で司教様も出席されたパーティが開かれ、堅信の喜びを分かち合った。



# アウグスチノ祭

20016年8月27日(土)夜のミサ後に信徒会ホールで行われました。バーベキューパーティーでした。おいしいそうめんもありましたね。大盛況でした。準備して下さった皆様に感謝、感謝でした。

今年のご招待、3名ご参加下さいました。これからもよろしくお願致します!!



鶴雄介

崎邊アキ

加藤一子

ゆずりさんの留学先ドイツのご友人からの差し入れのビールHelles。今田神父様の熱っぽいHelles ビールの説明に微笑みがこぼれました。



Helles ビール、これは、修道院で作られていたビール。当時、身体に良くない物質を含むビールが出まわる中修道院が作ったビールは安全と言うことで人気を博した。



沢山の人で賑わってました!



遠山神父様のお誕生日の前祝いです!!



自己紹介ゲーム  
お菓子の好きな○さんの隣のお寿司が好きな○さんの隣の・・・  
覚えるのは大変でしたね?



色とりどりのかき氷の差し入れ  
子どもたちも大人にも大人気でした。ビールのは100円です~



暑い暑い、  
こちらはバーベキュー焼き場



スイカ割り  
見守られながら、  
お見事!!



最後は笹丘ファミリア合唱団  
お酒も回って気持ちよく歌ってましたね~



## 信仰のルーツ



「ボンクリ」

私はボンクリです。幼児洗礼のことをボーンクリスチャン(Born Christian) 略してボンクリということを知った。

私の父は奄美大島の出身で先祖代々からのカトリックの信者だ。父が子供の頃の奄美ではクリスチャンというだけで、学校では体罰をうけたり、家屋には放水までされたそうだ。そういう受難を避けるために、生まれ故郷の奄美を離れ一族で宮崎に入植して貧しいながらも、信仰を守ってきた。その父は、終戦間際に就職で広島に行き、三日後にあの原爆を浴びた。爆心地に近かったが、ブロック塀のおかげで一命はとりとめた。その後は、地獄の広島に一月留まり死者の弔いをしていた。宮崎に帰った時は、親兄弟は当然のように、幽霊でも見るかのように驚いたそうだ。

その後、母と出会い結婚となったが、母が結婚洗礼であったため、結婚式は聖堂で挙げてもらえず、司祭館の応接室だったそうだ。紋付き袴で馳せ参じた母方の親戚は哑然、「キリスト教とは何?!」 当時は大変な騒ぎとなったと聞いた。

そんな大変な結婚式の二人から五月のファティマの聖母のお祝いの頃、私は生まれその名をいただき洗礼を受けた。父は多くを語る人ではなかったが、ただ、バスで30分かかる教会のミサをさぼると機嫌が悪かった。しかし、教会では陽気なイタリア人の神父様がいつも待っていてくれて、とても可愛がってもらった。「笑いなさい」「笑いなさい」といつもホッペをつままれたことを覚えている。

教会、信仰に対しては厳格な父も亡くなって三年になるが、思い出す父の姿はいつも、ロザリオと祈祷書を傍らにして祈りを唱えていた。何を祈っていたのだろうか。先に神様のもとに召されていた母に、結婚式のことを詫びていたのだろうか。奄美での苦しかった生活を思い出しながら、支えてくださっていた神様に感謝していたのだろうか。いずれにしても祈りの人であった父。その父から私は何を学んできたのだろうか。

カトリックというだけであられだけ迫害を受け厳しい時代を生きただけの父は、私のカトリックの洗礼の時、何を思っていたのだろうか。とにかく信仰さえあれば、あとは神様がなんとかしてくださるとの思いがあったのだろうか。そうそう、私が両親に結婚の相談をした時、相手がカトリックの信者というそれだけで十分、何も反対はしなかった。主人には大きな声では言えないが。

信仰の自由がある現在、自分で求め、選んだのではない私自身の信仰について、今一度考えてみたいと思う。

現在、家族全員がカトリック信者というお恵みを感謝しながら。 (K. K)

## 編集後記

過日の拡大信者会で今年度の小教区のテーマ「届けよう、神のいつくしみを共に」の具体的な取り組みが話し合われた。そしてその中で、意外にも数年前に取り組まれていた「ほほえみたい」の話題になった。「あなたに微笑みたい」「みんなで微笑みたい隊」「何はなくてもまずは微笑みたい！！」そうだったんだ。あれは結構人気があったのだ。(当時の会長の弁)

小教区共同体の家族に気配りを。「元気やったね」「飲み過ぎはいかんバイ」「子供や孫はどうしとるね」いつくしみは挨拶から、いつくしみは微笑みから。まず「微笑みを届けよう。」だれにでもできるはずだ。(Y.K)